

第十回 海外教育事情調査 [中国・内蒙古自治区]

第十回海外教育事情調査は中国・内蒙古自治区の呼和浩特市、包頭市を主訪問地に、昨年十月八日から一週間実施された。谷口理事長を団長に幼・小・中・高校及び専門学校の教員と行政、事務局職員を含めて十六名の団を編成し、岡山から上海、北京経由で呼



和浩特市に入った。蒙古というとジンギス汗、遊牧民、パオという移動幕舎などが頭に浮かぶが、今は漢族の移住により農耕定住型社会に変わってしまった。呼和浩特市は人口百九十七万人の大都市で、商業の中心となっている。市の北方約八十キロの昭和高原まで足を伸ばしても、広大な自然も人の手が入り、遊牧の面影は見られない。パオも観光客用に利用されているのみである。

一行は呼和浩特市で自治区教育委員会、内蒙古師範大学、日本語を教える専修学校を訪ね、関係者と教育上の諸問題について情報交換した。この十年間、自治区全般で教育環境は飛躍的に向上してきたという印象を受けた。また、蒙古族などの少数民族に対する教育上の配慮措置が取られていることもよく分かった。



包頭市第四職業高級中学の外観

包頭市第四職業高級中学では調理や自動車運転の実習に打ち込む生徒の姿が印象的であった。校内の縫製工場では高校二年生の生徒が軍服の縫



迎賓幼兒園三歳児の可愛い演技

製をしていたが、一般の労働者と同じ勤務、技術が求められる。奨学金の形で報酬が支払われる。また、迎賓幼兒園の園児たちの歓迎の集団演技はとて素晴らしいものであった。

北京では北京護国学校を訪問した。国立の看護専門学校である。実習する生徒の真剣な目がどこでも印象に残った。中国らしく漢方やマッサージも学んでいた。

公式訪問の合間に、北京では天壇公園、故宮博物院、頤和園、呼和浩特市では王昭君墓、五塔寺、包頭ではジンギス汗陵、包頭博物館などを訪ね、中国文化の一端に触れることができた。

編集後記

助成事業を始めて三年経過した福武文化振興財団では、平成十二年度から募集を三月に行うことにしました。これまで七、八月に募集していましたが、年度の途中ではいろいろと差し支えがあるので改善したものです。

教育も文化も助成成果報告会の模様を掲載しています。

また、第十回海外教育事情調査は中国・内蒙古自治区を対象に選んで十月に実施されましたので、その概要も掲載しました。ただ、「不易」の紙面ではスペースが極めて小さいので、詳しく紹介できないのが残念です。

これらの財団の主要事業はいずれも詳しい報告書にして刊行していますので、残部がある限りご希望の方には提供できます。

なお、昨年七月に実施したシルクロード調査の報告書は「絲綢之路(シルクロード)紀行」として三月中旬発刊を予定しています。

不易

平成十二年度

文化関係助成 募集開始

福武文化振興財団は、平成十二年度の文化関係助成公募を開始した。公募開始にあたり、当財団は過去三年間の助成事業を見直し、大幅な改定を行った。まず、募集の開始は、三月

初めとし、三月末に締め切り、五月下旬に決定することとした。これにあわせて助成期間も平成十二年六月から一年間となる。また、助成総額を一千万円から一千四百万円に増額した。

第5号
平成12年3月3日
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
印刷(株)シンプレス

1件の上限は、伝統文化部門を二十万円から三十万円に引き上げた。現代文化部門の上限は現行どおりの二十万円。なお、助成件数に関しては特に決めてはいない。これは、応募件数の増加と県内の文化団体の活動が活発化していることに配慮したものである。

(佐々木)



平成11年度 助成受賞者、来賓、審査委員と記念撮影

第三回 文化関係助成贈呈式

県内における文化関係諸活動を支援する目的の「文化関係助成」の平成十一年度贈呈式は、昨年十月二十一日に岡山プラザホテルで行われ、関係者百五十人が出席した。本年度は、伝統文化部門と現代文化部門に分けて公募、応募総数百十六件から、五十件が助成された。助成総額は八百万円。

文化関係助成募集の概要

- 1 目的**
伝統文化部門…地域に古くから継承されてきた伝統的な文化の保存、伝承や、郷土の歴史や文化の掘り起こし、普及などにかかわる活動や調査研究を支援することによって、伝統文化の振興と地域の活性化に資することを目的とする。
現代文化部門…地域住民の主体的な活動による現代的な文化の創造、普及や、人々の生活改善などにかかわる活動や調査研究を支援することによって、現代文化の振興と地域の活性化に資することを目的とする。
- 2 対象**
岡山県内で、この助成の目的に沿う活動を現に行い、今後も引き続き行うことが明らかな、原則として社会人で構成する団体または個人。
- 3 連続助成**
原則として2年まで。
- 4 助成額**
総額 1,400万円。
一件の上限(原則)は、伝統文化部門30万円、現代文化部門20万円。
- 5 助成期間**
平成12年6月から1年間。
- 6 応募方法**
財団所定の申請書により、郵送にて受付。
(申請書は、ホームページからもダウンロードができます。http://www.fukutake.or.jp/)
- 7 応募の締め切り**
平成12年3月31日(金) 当日消印有効
- 8 審査方法**
審査委員会で厳正に審査し、理事会で決定。
- 9 助成の決定**
採否とも応募者に文書で通知。また、助成団体名は、ホームページ上でも公表。(5月下旬予定)
- 10 お問い合わせ先**
(財)福武文化振興財団 事務局まで
TEL086-221-5254 FAX086-232-3190

(佐々木)

第二回 文化関係助成(文化活動) 助成成果報告会

福武文化振興財団の事業である文化活動助成の成果報告会が、一月三十一日に岡山ラザホテルで行われ、約百六十名が参加した。

平成十年度助成を受けたのは、文化活動三十九団体、調査研究十団体。

今回、発表の部は、実演の外にOHPやパソコンなどの機器を使用した発表が目立った。また、展示の部は、十二団体が出展した。

報告した団体は次のとおり。



展示風景

発表の部

- 1 灘崎かげっこ 2 総社音楽倶楽部 3 伊与部山史跡開発推進委員会 4 西大寺愛郷会 5 地球と見合った生活文化クラブ 6 吉備楽十六日会 7 奈義町郷土の歴史を知る会 8 AMDA活動支援コンサート実行委員会 9 金光拓本の会 10 町おこし愛 11 岡山邦楽合奏団

展示の部

- AMDA活動支援コンサート実行委員会、伊与部山史跡開発推進委員会、打穴中「鬼山ふる里」いきいき会、おかやまアートファーム、邑久町女性フォークラム、CARATプロジェクトカンパニー、観光ボランティアガイドブック作成グループ、金光拓本の会、西大寺愛郷会、地球と見合った生活文化クラブ、人形劇団おもちゃ箱、備前市青年協議会。



発表の様子

参加者からは、「県内のいろいろな文化活動について知ることができてよかった。」「自分たちの活動の励みになった。」との声がかかれた。

また、目録審査委員長からは、「多くの応募者から厳正な審査によって選ばれた団体だけあって、活発に活動している様子が伺える。これからも長く続けてください。」との講評をいただいた。

続いて行われた記念懇親会で参加者は、情報交換をしたり、旧交を温めあったりして、和やかに時を過ごしていた。平成十年度助成者の更なる活躍を祈りたい。

(佐々木)

こんにちは

倉敷地区ウエルカム 観光ガイド連絡会

代表 多賀 慎太郎さん

美観地区は、江戸時代からの町家が二百六十も残る日本有数の観光地です。ここを訪れる観光客の案内に活躍されている倉敷地区ウエルカム観光ガイド連絡会を訪ねました。ガイドさんは、総勢二十七名。今年六月、案内者数が十万人を突破しました。来年は、発足十周年を迎えます。

簡単な説明の後、実際に美観地区を案内していただきました。ブルーのジャケットに白線の入った紺の帽子を被られたガイドさんにエスコートされると、すっかり旅人の気分になります。美観地区へは何度か足を運んでいるのですが、案内していただくのは初めてです。お話を伺いながら歩くと、有名な場所ももとより、今まで見過ごしていたところが光って見えました。不思議なのは、私が好きなところ



観光客に説明するガイドさん

ろや事柄はくわしく説明してください。あまり興味のないところはざりと流されていくことです。お話しするうちに案内する相手に合わせて話題づくりや時間配分、どこまでくわしく説明するかなどを考慮されていることがわかり、心温まる思いがしました。皆さん、これからもよろしくお願いします。(佐々木)

※ガイドを希望される方は、予約されるか、当日の九時半または十三時半までに倉敷観光休憩所内の連絡所に行けば、おひとりから予約なしで案内してもらえます。無料です。(月曜日は定休日)

☎〇八六四二五六〇三九(呼出し)

第十二回 教育研究助成・図書館助成 助成成果報告会

福武教育振興財団の事業である教育研究助成・図書館助成の成果報告会は昨年十一月二十七日(土)に岡山ラザホテルで行われた。参加者は約八十名。この会は、平成十年度に助成した研究者(教育研究助成三十八件、図書館助成十三件)が一年間研究してきた



報告会 会場風景

た成果を発表するもので、今回で第十二回目。

前回と同様、パソコンやビデオ、教材提示装置などの機器を駆使しての発表であった。更に、財団には所持していないスライドプロジェクトもレンタルして、今回も発表方法は多岐にわたった。

発表者は当日の報告順に次のとおり。(学校名は略)

- 1 三石保(備前) 深澤美代子園長。2 秦小(総社) 井上克彦教諭。3 足守中(岡山) 能登律安教諭。4 開成小(岡山) 中島莞爾校長。5 県教育工学研究協議会 平松茂指導主事・高橋伸明教諭。6 県高等学校化学研究グループ 松



講評する審査委員長 高旗教授

本行史教諭。7 岡大教育学部附小 杉能道明教諭。8 県立成羽高大久保緑子教諭、の九名の方々による八報告。報告のテーマは「環境学習」から「教材研究」まで多彩であった。また、今回初めて成羽高校の大久保先生に図書館助成の発表をしていただいた。

発表後に、教育研究助成審査委員長の高旗正人教授(岡山大学教育学部)から「よく研究された発表であった。今後の成果がさらに期待できる」との講評をいただいた。(岡田)

がんばってます

岡山県立 岡山工業高等学校 西原 明弘教諭

今回取材させていただいたのは、岡山工業高校の西原明弘先生です。平成十年度に教育研究助成を受けられて、岡山工業高校としては初めての取り組みである短期海外研修を実施されました。

参加希望生徒二十一名、引率・同行教師四名の計二十五名が大きな期待と不安を胸にマレーシアへ出発しました。日程は八月二十二日～二十八日までの七日間で、主な行事は、ベントン技術高等学校との交流、首都クアラルンプールからバスで約三時間かかるメモローケルダウでのホームステイなどです。

西原先生のご配慮で、研修に参加した電気科の東俊輔君と建築科の森岡こころさんの二人に話を聞く時間を作っていただきました。東君「朝は早く、コーラン



メモロー村到着、代表があいさつ

の放送の音で目が覚める。また、えびせんにタバスコのよなのをかけたものが朝食に出てきた。森岡さん「お風呂はお水で、つかるのではなくかけるのがマレーシア流。習慣で晩に入ったんですが、寒くて失敗しました。」などのエピソードを披露してくれました。

(岡田)

カレンダー

3月

◎文化関係助成
・公募開始3/1～
・応募締切3/31まで
◎教育・文化 理事会

4月

◎「不易」6号発行
◎教育関係表彰・助成
・公募開始4/1～
・応募締切4/30まで

5月

◎文化関係助成
・決定(下旬)

6月

◎文化関係助成贈呈式
◎教育関係表彰・助成
・決定(下旬)